

別対談



三原市長
岡田吉弘
OKADA Yoshihiro

チャレンジしたいこと

市民の皆さんと一緒にサイクリングをするイベントをやりたいです。運動しながらきれいな景色を見て、いろいろなことを語り合えるようなイベントができれば良いと思います。



◆ 昨年完成したJR三原駅前のキオラスクエアで語り合う岡田市長(右)と仁ノ岡議長(右は市立中央図書館)

令和2年7月に完成したJR三原駅前のキオラスクエアで、岡田吉弘市長と仁ノ岡 範之議長が、今年の展望などを語り合いました。

——昨年を振り返ってみて、どのような一年でしたか。

岡田市長

かねてから「三原をもっと元気にしたい」と思っていましたので、昨年末に就任し、三原のために仕事ができることをとてもうれしく思います。

令和2年は新型コロナウイルス感染症が、市民生活や経済活動などあらゆる場面に影響を与えた大変な年でした。こうした中でも、市民の皆さんが力を合わせて頑張ってこられたおかげで、困難な状況にも一つ一つ対応することができた年でした。

仁ノ岡議長

令和2年は大きなテーマが二つありました。一つ目は平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興です。農地・農業用施設の工事が遅れているため、早急な対応が必要だと考えています。二つ目はコロナへの対応です。昨年

4月から市独自の経済対策などについて市と歩調を合わせて対応してきました。今後も市と連携しながら、状況に応じた対応をしていきたいと思えます。

岡田市長

コロナに関しては刻一刻と状況が変化したため、議会との連携による迅速な対応がいかに大切かということがよく分かりました。

今年の一つのポイントとして、議会との連携を具体的に進めていく必要があると考えています。

仁ノ岡議長

議会では2年前から市への政策提言

に取り組んできており、昨年「情報発信」や「地域公共交通」「観光戦略」に関する3つの政策を提言することができました。これは、より充実した政策にするため市民との意見交換会や委員会での調査研究などを重ね、各議員が時間をかけてまとめたものです。今後もこの取り組みを継続していきたいです。

岡田市長

地域の状況をよく知られている議員の皆さんが、さまざまな調査を行なってまとめられた提言を、ぜひ参考にさせていただきます。これらを元に議会と更なる対話をしていきたいと考えています。

新春 特



三原市議会議長

仁ノ岡 範之

NINOOKA Noriyuki

——今年の展望を教えてください。

岡田市長

子育て・教育環境の充実はとても重要であり、先進的な取り組みを次々と行なっていく必要があります。その鍵となるのが「GIGAスクール構想」です。

小・中学校の児童生徒に1人1台のキーボード付き端末の準備が整い、普通教室への大型テレビの整備なども間もなく完了します。これからは魅力的な授業を行なっていくことが大切になります。先生はもちろん、民間企業の皆さんとも連携して「三原の教育はすごく良くなった」と言われるように取り組みたいと考えています。また新しい教育のかたちを保

護者や地域の皆さんにも見ていただける機会をつくりたいと思っています。

仁ノ岡議長

議会では施行から8年を迎えた「市議会基本条例」の見直しを行います。条例は市民と議会の関係などの基本理念を定めたもので、いわば議会と市民との約束事です。時代とともに議会・議員に求められている役割は変わってきていますので、条例がそれに見合ったものになるよう検証を行い、2月定例会での改正に向けて議論を進めています。

また、中心市街地の活性化が必要だと思っています。東館の跡地は、キオラスクエアとして立派に生まれ変わ

ました。次は、三原内港の再生を市と一緒に進めていき、市外の人からも住みたいと思われるまちをめざしていきたいです。

岡田市長

人口減少対策は大きな課題です。まちの活力のため、「三原に行きたい」「三原に住みたい」と思う人を増やしていきたいです。そのためには三原の魅力を市内外にしっかりとPRしていく必要があります。三原市への移住を検討している人が、スムーズに定住できる仕組みを作りたいと思っています。

仁ノ岡議長

首都圏では、子育てのために移住を

プライベートで今年チ

私は10年ほど前から、子どもたちが自然と触れ合える場づくりに取り組んできました。豊かな自然に触れることで、子どもの心も豊かになると思っています。今年も引き続きこの取り組みを行なっていきたいです。



考える人たちもいるといわれています。そういった子育てで世代に選ばれるように、出産や小児医療に関わる体制、悩みを相談できる場などを充実させたいと考えています。三原への移住者も増えるのではないのでしょうか。

岡田市長

そうですね。東京などではコロナの影響もあり、地方都市の魅力が再認識されています。子どもたちをはじめ、誰一人取り残さない、まちづくりにチャレンジすることは、三原の魅力を高めることとなります。今年も議会や企業、地域の皆さんと連携しながら取り組んでいきたいです。